

連携室だより

巻末コラム 34

桜の木の下にあらぬものを想像した梶井基次郎ではありませんが、毎年、桜の時期になると落ち着かなくなるのは、桜の木の魔力かもしれません。

昨年、桜を観たのは宮城県の石巻でした。静かな海に釣り糸を垂れ、小魚を潮(うしお)汁にして元漁師の皆さんと頂きました。「この海に皆持っていかれてしまった」「いい人ばかりが逝ってしまって、俺なんかが残って…」「こうして、(おいしく)食べるのが供養だと思っている」という言葉を伺いつつ、桜を見ながら頂きました。

私は、阪神淡路大震災のとき、神戸市長田区の病院に勤務しており、当日の早朝から2日間休まず寝台車の運転

をしましたが、そのときにできたこととできなかったことを考えると、「普段のつながりの範囲内でしか動けなかった」という当たり前のことでした。非常事態のつながりは常時の延長でしかないという結論でした。

当院は、災害拠点病院という意味からも地域の医療機関と常時から連携、絆を強めたいと考えております。連携こそが宝だと思っております。

非常事態に確かめるのではなく、桜咲く公園で絆を確かめられたらと願っております。

本年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

医療社会事業課長補佐 松井 久典



京都第一赤十字病院

日本赤十字社

人間を救うのは、人間だ。Our world.Your move.

絆

泉山長老
俊朝

京都第一赤だより



人道と奉仕の赤十字精神に基づき、患者さまにとって安心できる適切な医療を行ないます。

春号

2015年4月発行 vol.56

Contents

新生児科のご紹介	2
小児外科のある病院とは	3
国際的に通用する検査室の誕生	4,5
医療社会事業部からのご挨拶	6
お知らせ	7

Access to Japanese Red Cross Kyoto Daiichi Hospital

当院へのアクセス



電車をご利用の場合

JR奈良線、京阪電鉄…「東福寺」駅下車、徒歩5分

バスをご利用の場合

市バス202、207、208系統「東福寺」バス停で下車

車をご利用の場合

【奈良、大阪方面から】… 京都市南IC出口、国道1号線を北へ約2.5キロ京阪国道口を東(右折)へ、九条通りを約2.5キロ

【山科、大津方面から】… 国道1号線を西進、東山五条交差点を南(左折)へ、東大路通りを約2キロ

【京都駅付近から】… 竹田街道を南へ約500メートル、大石橋交差点を東(左折)へ九条通りを約500メートル

京都第一赤十字病院

京都市東山区本町15-749 TEL.075-561-1121

地域医療連携室 【直通】TEL.075-533-1280

FAX.075-533-1282

新しい年度がスタートします。

平成26年度は診療報酬改定があり、消費税率の3%引き上げも実行されました。その影響もあってか、当院では稼働額の伸び悩み状態が続いています。

診療報酬改定について一言。

2年に一度の診療報酬改定に素早かつ確に対応することが病院運営にとって不可欠であることは言うまでもありません。しかしながら、当の改定における施設基準の要件解釈が、改定の施行日である4月1日を超えてもまだ疑義解釈が繰り返されるというのは如何なものでしょうか。施設基準に適合させるため、費用をかけて準備したにもかかわらず、疑義解釈が定まっていなかったため認定が下りないというものもあります。言うまでもなく、改定は、今後

の我が国の医療制度をあるべき姿へ誘導するものです。そうであれば、制度設計は実現可能性をしっかりと見据えて綿密に行ってもらいたいものです。

また、消費税率の3%引き上げは、実質上のマイナス改定となるものです。超高齢社会を迎え国民医療費が増加の一途をたどる状況下において、今後の報酬改定に多くを望むことは一層困難となります。

医療機関としては、病院完結型医療から地域完結型医療への転換を的確に実行していく必要があります。地域における医療機関それぞれの強みを生かし、お互いが繁栄できる仕組みの構築が必要となります。

平成27年度は、地域連携をより具体的に進めていく方針です。ご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

京都第一赤十字病院 事務部長 岩瀬 充



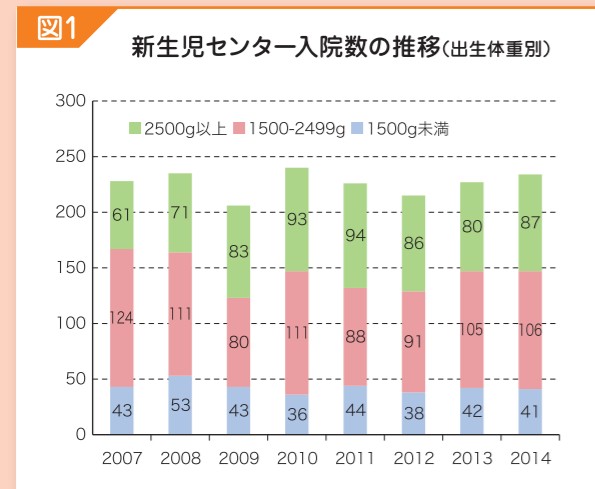
新生児科のご紹介

新生児科 副部長 木下 大介 部長 西村 陽

当院は京都府唯一の総合周産期母子医療センターとしての役割を担っており、多くのハイリスク母体・新生児の診療を行っています。新生児科は主に新生児集中治療室(NICU)9床と回復治療室(GCU)18床において、医療を必要とする新生児の生命・発達予後の向上、ならびに退院後の安心できる養育環境形成をサポートするべく、コメディカルと共に日々診療を行っています。

●入院患者数

2014年の入院患者数は234人、うち出生体重1500g未満児数は41人と京都府内では最多でした。2014年は出生体重750g未満児も多く、NICU9床は常時満床となっており、結果として多くの母体搬送・新生児搬送の受け入れをお断りせざるを得ませんでした。今後は退院支援・在宅医療への移行などの病床コントロールをよりスムーズにし、できるだけ多くの患者様を受け入れられるよう、病院を上げて取り組んでいきたいと考えております。(図1)

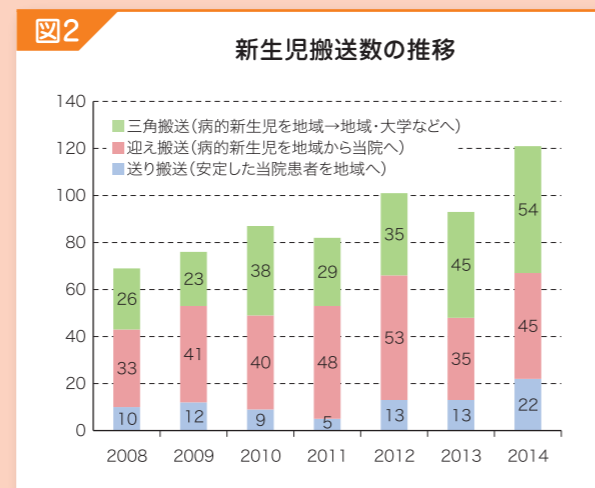


●新生児搬送

2014年の新生児搬送患者は過去最多の121件でした。京都市内・近隣市町村の分娩施設からの多くの新生児搬送のご依頼をいただいております。病床数や対応疾患の問題ですべてのご依

頼をお受けすることはできませんが、新生児が適切な場で医療を受けることができるよう、24時間体制で新生児科医師が出勤しております。

(図2)



●新生児蘇生法講習会(NCPR)

昨年、全国で20箇所あるトレーニングサイトの1つとして認定されました。新生児仮死児の予後改善のため、年に2-3回のインストラクター講習会の開催に加え、京都府内のNCPR講習会の質の担保や開催支援に貢献していきます。

●自治体との連携

安全で良質な新生児医療システム構築のためには、マンパワーはもちろんのこと、患者・医療者のための十分なスペースや、安全が担保された最新の医療機器などが欠かせません。当院は総合周産期母子医療センターであり、自治体からの補助金などにより、優先順位が高い医療機器(保育器や呼吸器など)の購入を支援いただいております。

長年当院の新生児科を支えてこられた木原美奈子先生が昨年ご退職され、新たな体制で新生児科を運営しております。色々とはならない点があるかと存じますが、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

『小児外科』のある病院とは

それは、小児外科(専門)医がいる病院です。

小児外科 部長 出口 英一

こどもは、当たり前ですが成人に比して身体が小さく、とくに新生児・未熟児では繊細な手術が必要になります。成人の手術と同じ方法では、こどもの手術はできません。サイズが小さいだけでなく、身体自体が成人のように完成したものではないことも重要です。こどもについての専門的な知識をしっかりと学んだ外科医、それが小児外科(専門)医であり、私たちの未来を創っていくこども達を、日夜、誇りと情熱をもって診療しています。

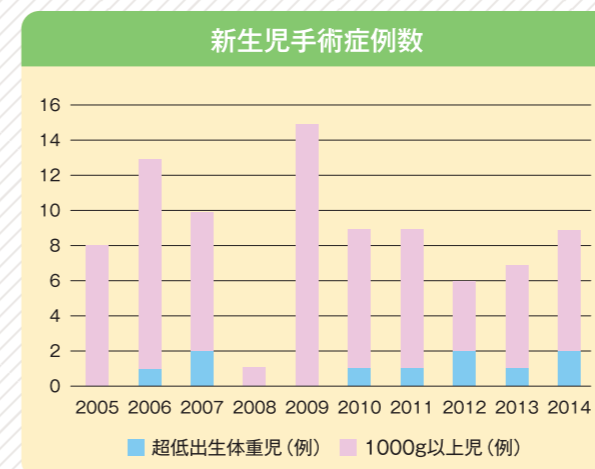
? どんな病気を治療するのですか

小児外科は、「小児一般外科」です。京都第一赤十字病院では、先天性食道閉鎖や腸閉鎖や直腸肛門奇形(鎖肛)など新生児外科疾患のほか、乳幼児期では鼠径ヘルニア、陰嚢水腫、停留精巣、臍ヘルニアなど、学童期では急性虫垂炎などの救急疾患をはじめとして、胆道拡張症や漏斗胸などの手術治療を行っています。小児鼠径ヘルニアや臍ヘルニアに対してはクリニカル・パスを適用し1泊2日の手術治療を行って、患児や家族の負担軽減に努めています。

京都第一赤十字病院には、総合周産期母子医療センターが設置されて低出生体重児の診

療が数多くなされています。1000g未満の超低出生体重児の診療において、消化管穿孔という合併症がまれにみられますが、多くの場合外科治療を必要とします。当科では過去10年間で87例の新生児手術が行われましたが、そのうちで超低出生体重児の消化管穿孔の手術は8例含まれました(図)。この8例のうちで救命できなかったのは1例で、他の7例の赤ちゃんはまず順調に育っています。日本小児外科学会の2008年の新生児手術集計では、新生児の消化管穿孔全体の死亡率が16.9%と報告され、2003年の集計(31.6%)から5年で半減していました。今後さらに、低出生児手術治療の成績向上が期待されます。

私たちは、手術を必要とする患児が、時機を逸することなく適切な医療を受けられる体制がしっかりできていることが重要と考えます。当院では小児救急診療を24時間体制で行っており、外科的疾患に対するバックアップ体制も整っています。小児科・小児外科専門医による診療を通じて、地域の病院・診療所の先生方と緊密に連携して、地域の小児医療の充実に寄与したいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



国際的に通用する検査室の誕生

全国の赤十字病院で唯一、ISO15189の認定を取得

当院の検査室が、ISO15189の認定を取得しました。

ISO15189とは臨床検査室の国際規格で、全国の赤十字病院のなかでは当院が唯一の認定取得施設です。

ISO15189を取得

検査部 技師長 大西 重樹

検査部では多くの検査技師が「優れた技師になるために頑張る」と目標を掲げ、専門的なスキルの向上には努力します。しかし「人は誰でも間違える」ことから逃れることはできないなか、「間違い」から何を学び、その再発を防ぐためどうするかなど、精度やリスクの管理を含んだ医療の質を担保するための取り組みは、十分とは言えませんでした。そこで私たちは検査の精度とリスク管理を保証するシステムを構築することを目指して、臨床検査部門に特化した国際基準ISO15189の取得に取り組みました。

ISO15189は、臨床検査室の品質と能力に関する特定要求事項を提供する国際標準化機構(International Organization for Standardization:ISO)が作成した国際規格です。内容は品質マネジメントシステム(精度やリスク等の管理システム)と技術的要求事項(スキルの評価、教育カリキュラムなど)から構成されていて、認定取得した検査室は、国際規格に合致した検査室として、またその検査結果は国際的に通用すること意味します。

ISO15189取得には、相当な経費がかかるにもかかわらず依田院長の許可をいただき、昨年2月16日にISO解説セミナーの開催を皮切りに、取得に向けた活動を始めました。多くの意味の分からない言葉や、なぜこんなに細かいことまで必要とされるのかも判らず、試行錯誤の日々が続きました。評価項目は547項目からなり多岐にわたります。それらを実施、管理、記録するために管理手順書48種、標準作業手順書(SOP)142種、記録フォーマット105種を作成し、運用を始めました。



ISO15189
取得認定証

これまで、「マニュアル」は整備され、それに基づいて検査を実施していましたが、たとえば、「遠心条件3500rpm5分、検体保存1週間冷蔵庫保存する」とあれば、遠心機の回転数の実測点検・確認(遠心機の表示値では無効)、冷蔵庫の温度点検・確認などが求められます。そのほかにも、検体検査エリアとそうでないエリアの線引き、それに伴い着用する白衣の限定など多くの管理とその記録が求められました。実施する検査内容についても同様です。ピペット精度の点検・確認、試薬の納品から使用までの管理、当然精度管理はこと細かく規定があります。今から思えば、当然といえば当然なのですが、求められていることが実践できていないことも少なからず存在しました。それらを、1つ1つ是正し11月5～7日に本審査(サーベイヤー6人)を受審しました。本審査では、管理手順書の内容の精度、その理解度を確認するための質疑応答、SOP審査、記録の確認のほかに、サーベイヤーが持ち込んだ検体の測定試験やフォトサーベイなどによる力量評価、研修会や学会での活動に至るまで審査の対象となりました。その結果33ヶ所の指摘を受けました。指摘項目については1ヶ月以内にすべて是正し報告書として提出することが義務付けられている

ため、ただちに指摘項目の是正を行い、報告書を提出しました。その報告書に基づき審査が行われ、これらの是正・修正の取り組み結果が適正に確実に運用されていることが確認され、1月15日に判定委員会で「認定」を受けることが出来ました。

これまで全国でISO15189の認定施設は82設あります。そのうち35施設は検査センターで、病院は47施設(大学病院26施設、その他の病院21施設)が認定されています。京都府では、京都大学医学部附属病院に次いで2施設目、日本赤十字社の医療施設では、京都第一赤十字病院が唯一の認定施設になりました。ISO15189認定は治験実施施設や臨床研究中核病院の承認要件の1つになるなどその価値は高まりつつあります。

しかし、私達にとっては、ISO15189の認定は資格取得を目的としたものではなく、PDCAサイクルを運用する「システム」が出来たという「始まり」にすぎません。今後ほぼ毎年行われる立ち入り調査(サーベイランス)を受けながら、ISO15189の運用を充実させ、運用の充実は安定した正確な検査結果につながり、常に業務の見直しを行い改善していくことによって、病院の中央診療部門として質の高いデータを提供できるよう努力したいと思います。



左：依田院長、右：浦田検査部長

医療社会事業部からのご挨拶

医療社会事業部長 高階 謙一郎

当院の医療社会事業部は主として地域連携課・医療社会事業課・小児周産期担当の3つの大きな柱から成り立っています。医療社会事業は地域包括ケアシステムや地域医療ビジョン作成に関与し今後病院の中の重要な部門になると思っています。今年度、医療社会事業部では地域医療連携課長に石井事務副部長が兼務し、病院の顔として病診・病病連携を強化・推進します。地域連携の輪を広げることにより、より多くの医療機関・患者様に当院を利用していただけのようにしていきたいと考えます。また医療社会事業課には京都府支部での経験も豊かな塩貝課長、さらにMSWとして幅広い経験を有する松井課長補佐を中心とする体制が整いました。

今年度、医療社会事業部は「改革の年」と位置付け、まずはじめに小児・周産期・退院支援とそれぞれの部門で業務を行ってきたMSWにつきましては、業務の一体化を図り、今後はより一層MSW全員が丸となって種々の業務に対応し、切れ目のないスムーズな医療・保健・福祉の総合的な医療サービスの提供に努めてまいります。

また、更なる医療社会事業部の体制強化を図り、地域における当部の責務が果たせるよう今後とも努力してまいりますので、どうかご協力、ご支援よろしくお願い申し上げます。

事務副部長 兼 地域医療連携課長 石井 英博

日頃より、患者さまのご紹介など「病診・病病連携」につきましては、格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

この度、平成27年4月より上門課長の後任として地域医療連携課長を務めさせていただくことになりました。とりわけ機能分担と連携という言葉をよく目にしますが、当課の担う役割を果たすため、皆様が何を必要とされているのかなど真摯に考えて参りたいと存じます。

今後とも気軽に地域医療連携課をご利用いただけますよう、微力ではございますが、従前にも増して皆様との医療連携を円滑に進め、患者さまへより良い医療が提供できるよう努めてまいりますので、スタッフともどもよろしくお願い申し上げます。

医療社会事業課長補佐 松井 久典

本年2月にソーシャルワーカーとして着任しました松井久典と申します。

私は、神戸市長田区のリハビリ病院に勤務し、地域リハビリテーションの理念、在宅療養の重要性、在宅介護支援センターを通して自治会活動の大切さを学びました。そして、12年前に大阪の3次救急の病院に転勤し、救急医療やがん診療、病診連携、災害医療に携わる中で、地域の中核病院の役割を考えてきました。

そして、このたび、その集大成としてこの歴史ある京都第一赤十字病院に勤務することができ、大変うれしく思っております。

まだまだ学ばなければならないことばかりですが、安心して提供できる適切な医療のために社会福祉の立場から微力をささげたいと思っております。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

お知らせ Information

新任部長について



健診部長 島 孝友

卒業年	昭和63年卒
認定医・専門等	日本循環器学会循環器専門医 日本超音波医学会認定超音波専門医 日本心臓リハビリテーション学会認定指導士 日本内科学会認定内科医、京都府立医科大学臨床教授



化学療法部長 内匠 千恵子

卒業年	昭和63年卒
専門領域	呼吸器全般／緩和医療
認定医・専門等	日本呼吸器学会専門医、日本内科学会総合内科専門医

休診のお知らせ

5月1日(金)は、当院創立記念日の為、休診いたします。

救急患者さまは救急外来にて診察いたしますが、当日は例年大変混み合いますので、長時間お待ちいただくことをご了承ください(重症患者さまの診察については、その限りではありません)。

病診連携懇話会を開催します

日時

平成27年7月2日(木) 16:00～

場所

ハイアットリージェンシー